

平成 22 年度 第 3 回サイバー・キャンパス・コンソーシアム
看護学グループ運営委員会議事録

I. 日時 平成 22 年 11 月 2 日(火)15:00～17:00

II. 私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 委員 宮本千津子委員・仲井克己委員・石橋カズヨ委員
事務局 井端事務局長，森下主幹，平田職員

IV. 議事概要

検討事項

1. 学士力実現に必要な ICT 活用の具体的な検討について

現在，文部科学省を中心に「看護系大学におけるモデル・コア・カリキュラム」導入に関する調査研究が進んでいる。また，同時に教育の情報化についての議論も活発に行われるようになった。

そこで，本委員会では，「看護系大学におけるモデル・コア・カリキュラム」を踏まえたうえで，5 年先を想定し，①新しい授業スタイルの提案，②学生自身の主体的な学びを促す授業方法の開発，③ポータルサイトなどを含めた成績管理・情報開示，などを視野に入れて[ICT を活用した看護学授業モデル]の策定をする。

具体的には，以下の授業モデルの提案を行う。

1) 在宅看護論実習前演習授業モデル

2) 看護学方法論演習授業モデル

ICT を活用することで，授業の予習復習・教材の作成・授業方法・学生の勉強方法（関連資料の収集・解析・判断・対処方法の発見，情報開示，情報交換など）・成績管理や開示など様々な面で従来の大学教育とは基本的に異なった発想による授業の展開が可能となる。また，教員のみならずやがて現場の第一線に立つ学生たちも，情報管理・関連法規の認識・ICT に関する基本技術の習得などについて学ぶ必要がある。

本日の委員会では，担当委員から提示された授業計画案をもとに，ICT 時代の看護教育という観点から審議を進めた。

a.在宅看護論実習前演習授業モデル

提示された授業計画書について，以下の意見がでた。

- ・「看護系大学におけるモデル・コア・カリキュラム」に則った形で授業計画・学習内容などを策定する。
- ・地域連携を含むケア環境およびチーム体制の整備に関する実践能力の育成が問われている。従来の「オリエンテーション」からさらに踏み込んで事前に現場で必要とされる技術・能力を実習前のシミュレーションという形で具体的に学ばせることに ICT 教

育の可能性がある。

- ・ LMS (Learning management system) という発想による授業の構成を図る。
グループディスカッションを行う場合など、情報の共有に ICT 技術は欠かすことができない技術になろうとしている。LMS によるコミュニケーション能力の育成は、訪問看護師が地域と連携してマネジメントする際などに必要となる学生自身のマネジメント能力を育む機会ともなる。
- ・ スマートフォンなどを視野に入れた授業の展開を視野に入れて授業計画案を策定する。
iPad や Android の普及が進んでいる。モバイルを活用して組織全体と有機的に結びついて活動できるという能力がこれから問われる。

b.看護学方法論演習授業モデル

- ・ 看護学方法論は、「基礎看護学」「健康障害をもつ対象への看護」のいずれを選ぶかで学ぶ内容に違いが生じる。いずれを対象とするかという問題は、授業案策定の作業を進めることとする。
- ・ PBL を導入した授業の構成について、可能性を考える。
プロセスを個人ワークでしっかり学んだうえで、グループワークで確認する。
- ・ 電子テキストの導入
病院などでは、「電子カルテ」などの導入が急速に進みつつある。このような現状に対応すべく、大学の授業においても電子テキストの導入などを促進し、画像（静止画・動画・音など）のデータ化など、ICT の活用により従来の授業では実現できなかった現実感覚・臨場感の中で学ぶことができるような授業教材を活用した授業方法の開発を進める。
- ・ 能動的な学習態度の涵養
ICT 活用により、学生が自ら情報を収集・解析・判断・情報共有などを体験的に行うことで、ややもすれば受動的な授業になりやすかった従来の授業方法を学生が能動的に参画できる授業へと改変していく。
- ・ 看護の現場において電子カルテの利用を想定した授業の実践を目指す。学生は治療、検査、薬剤、患者の反応、社会生活、既往歴など過去から現在に至る看護に関わる情報を得たうえで、「今、必要なこと」を問うといった授業方法の開発が可能となる。
- ・ 文字情報だけでなく、映像や音声などが入っていることにより、より深いレベルでシミュレーションすることが可能となる。

総じて以下の指摘があった。

- ・ [ICT を活用した授業の展開]という基本的なコンセプトを再度確認し、さらに一層 ICT をどのように活用した授業展開を図るのか具体的に提案できるよう考察する必要がある。
- ・ プロジェクトポータルサイトの導入など ICT をインフラとして利用することも視野に入れて、授業方法の展開について考えると同時に、成績管理・成績開示などにも ICT を活

用し，教育効果を上げるための工夫が必要である。

例：コンセプトマッピング

- ・隣接学科との提携による授業の展開を図る際に，ICT を利用することでより円滑にネットワークの構築が可能となる。

<課題と作業工程の確認>

- 1) 12月3日までに担当委員は授業案を作成し，メールで送付。
- 2) 12月17日までに相互に意見交換し，授業案をまとめる。
- 3) 12月17日以降～下旬 意見聴取を開始

以上